

ほむ・ほむ通信

No. 26

ユニセフネパールスタディツアー PHOTO REPORT

2004 年 10 月 30 日 (土) ～11 月 7 日 (日) まで、生協、日本ユニセフ協会県支部、日本ユニセフ協会 13 名でネパールを視察しました。視察地はネパール南部、インド国境近くのカピラバストゥ郡 (日本の県に相当)。ブッダ生誕地ルンビニの近くです。人口は約 50 万人で、多様な民族がいます。ネパール人間開発指標では 75 郡の内、56 位と低位に位置しています。



カピラバストゥ郡のようす。平野部で田んぼや畑が一面に広がっています。牛や水牛、やぎ、鶏などが家畜として飼われていて、村や町のあちこちで（道路の真中にも！）見られます。米はもうすぐ収穫時期ですが、日本の米ほど生育状況は良くないようです。



村の女性グループで、村の調査・分析をして、問題解決方法について話し合いを行い、ユニセフなどから支援を受けながら村の問題を解決していきます。これは村のリーダーが「村の子どもの就学率」や「村の子どもの予防接種率」などを 3 ヶ月ごとに調査し、記入した掲示板です。リーダーが詳しく説明してくれました。



村の調査を行った結果、子どもたちが栄養不良であることがわかり、この女性は自分の子どもの生活（食事や睡眠など）を 6 ヶ月間毎日記録をつけて、原因を分析しました。正しい育て方がわかり、2 人目の子どもは栄養不良にはなっていないそうです。



村の学校の様子。正規の学校が遠くて通えない小学 1～3 年生の子どものために、村で学校を建て、ユニセフの支援で先生の研修をしたり教材を手に入れて自分達の村で勉強ができるようになりました。文字の読み書きのできない親が子どもから教わることも多く、親も教育のすばらしさを実感しているそうです。



学校での衛生クラスで使うツール。「食事の前には手を洗いましょう」「歯を磨きましょう」ということをこのセットを使って教えます。子どもたちは学校で学んだことを家に持ち帰って、親の意識も変わり始め、村をきれいにするためのグループを組んで清掃などをはじめました。



村のサブヘルスポスト（診療所）の建物（1Fのみを使用）。女性の保健ボランティアや看護婦さん、助産婦さんが、妊娠や日々の小さな病気へのケア、予防接種への協力などをしています。大きな病気や手術を行う病院は郡に2つしかなく、医者も各1人しかいません。



ネパールの子どもと近藤さん
視察中私たちに同行して色々教えていただきました。

ユニセフネパール教育担当 近藤智恵さんからのメッセージ

生協の皆様、日頃からユニセフへのあたたかいご支援、誠に有り難うございます。ネパールでは320万人の5歳から9歳児のうち、50万人以上の子供が未だ学校に行けないのが現状です。学校に行けない、行かない主な理由は家が貧しい、親の手伝いをしなくてはならない、学校が遠い、授業が面白くない、教室が足りない、校舎が古くて壊れている、トイレや水道などの設備が無い等々ですが、私はユニセフネパールでそういった子どもたちが学校に行けるように、そしてより良い学校作り、さらに学校に行けなかった10歳から14歳の子どもを対象に学校外での基礎教育の機会提供といったことに携わっています。これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

現場で活躍するスタッフ

今回の視察旅行中、ずっと同行して案内して下さったスンダーさんというユニセフネパール西部地域事務所チーフの話を紹介致します。

「私は皆さんが苦勞して集めてくださった大切な募金を、沢山あるプログラムの中からどの地区にどの様な配分で使ったら良いか、又それを住民に理解してもらうにはどうすれば良いか、常に頭を悩ましております。非常に責任のある仕事だからです。」

「皆さん、ネパールは非常に貧しい国です。しっかりとご自分の目で見て確かめてください。これがネパールなのです。」

実際、私達が訪れた村々の実情は想像以上のものでした。でも、教室にいる子ども達の嬉しそうな顔、予防注射や母子保健、トイレの設置等に成果を上げていると説明する地域指導員の自信に充ちた顔。我々の募金はユニセフが様々なプログラムを展開して行く上で大いに役立っているのです。

(弘南生協 北畠由良子さん)



ユニセフネパール西部地域事務所
で活躍するスンダー・グルンさん（ネパール人スタッフ）

カピラバストゥ郡



ネパールスタディツアー参加者の声

いわて生協 花田陽子さん

現在ネパール政府が機能していない状況の中で、ユニセフの活動がネパールの人々の教育・衛生・保健など、生活の向上に多大な貢献をしていることに感激しました。持てる国日本に住んでいる私が出来た事は何かをしっかりと胸にきざんだ旅でした。

コープかながわ 小野美知子さん

私たちが訪れたカピラバストゥ郡は一面水田の平地で稲の刈入れ時でした。小学校へ行っていない子どもが2万人もいるというところですが、ユニセフは郡開発委員会と協力して子どもたちに教育を受けさせ自立できる人になるように支援し、又それに気付いたお母さん達が努力をしてよい国にしようとがんばっているのに感動しました。

弘南生協 北島由良子さん

私が見たネパールの一コマ

どこ迄も続く一本道。周りは田んぼや畑です。前を行く車の土埃の中から突然牛の群が現れました。お互いゆっくりとすれ違いました。村の中心部に入りました。道の真中に犬が寝そべっています。子山羊や牛も寝そべっています。小さな子どもたちがうろちょろしています。ひどい凸凹道のそんな混雑の中を車は巧みにすり抜けて進みます。絵本や映像の中で見た事のある風景です。

一つの小さな集落に着きました。大勢の子どもたちが窓のない藁屋根の教室の中で勉強していました。ザビアという女の子が呼ばれて、自分の一日の様子を私たちに話してくれることになりました。少し緊張している様子です。お父さんが近付いてきてザビアの髪をそっと直してやりました。お父さんは娘の晴舞台をじっと見守りつづけていました。私がネパールで見た忘れられない光景の一つです。

生協共立社 佐藤大樹さん

視察地のカピラバストゥ郡はまさに辺境地域で、生活環境の劣悪さは、アジア最貧の汚名もさもありなんという状況でした。今回初めて、ユニセフの最前線を視察しましたが、地域の自立を主眼にした活動は確実に女性と子どもたちをめぐる環境を向上させていることを実感しました。自分たちの税金や年金の使われ方に？を感じる身にとって、この支援は募金を『生きた金』にしてくれるという印象を強く持ちました。

来年度からの指定募金の取組みをがんばっていきたいと思います。

コープこうべ 竹内恵子さん

このツアーの「鍵」は女性。貧しい村でも女性を支援することによって、教育が芽生え、生活が向上する様を目の当たりにし、同じ女性として「どうぞこれからも手をとりあって頑張ってください」と願わずにはいられない旅でした。

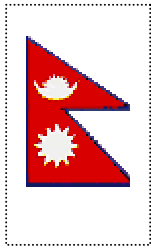


カピラバストゥ郡開発委員会のメンバーの皆さんと。

日本チームの視察が全国紙の記事に！

11月2日のネパールの全国紙の記事には、日本から13名のメンバーがユニセフのプログラムの視察にカピラバストゥ郡に訪問しているという記事が掲載されました。記事の中では、東北の生協が2005年度から支援を始めるDACAW（地域主体と女性と子どものためのプログラム）は、「他の団体の実施するプログラムと比べて成功しているプログラムと評価されている」とも書かれていました。郡政府や村人からの期待も高いプログラムということが視察でよくわかりました。（林田）





世界でもめずらしい三角形の国旗を持ち、ヒンドゥー教を国教に定めている国がネパール。面積は日本のほぼ 1/3、人口は約 2300 万人で日本の 1/6 ですが、その国土には 30 以上の民族が暮らしています。

南北の距離は広い所でも 241 km しかないという狭い間に、標高 60m の平野や盆地、8800 m の世界最高峰エベレスト（現地名サガルマータ）をはじめとした多くの山々がそびえています。

18 世紀に国家が統一された後も、その複雑な地形が各々の民族の多種多様な文化を守ってきたともいえます。その一つが暦。

ネパールの公式の暦は、西暦より 56 年早いヴィクラム暦。新年は 4 月中旬に始まり、大陰太陽暦に近く、伝統行事はこれに沿って行なわれています。ネパール暦やチベット暦など民族によって使われている暦が違ったりもします。

町の子どもの一日～留学生のお話から～

朝は家ごとに神様へのお祈りをし、まずはチャイを飲みます。そして家の手伝い（年齢によって違いますが、水汲みや牛の世話、子守りやご飯の支度など）を終えてから朝食です。



ネパールの食事は基本的に一日二食で、朝遅い時間と夜に食べます。バート（ごはん）、タルカリ（野菜のカレ

ー）がほぼ毎日。これにダルという豆のスープやアチャール（漬物）が付く定食の様なものが一般的で、間に軽いおやつを食べます。自給自足が多いネパールでは家畜は大切な家族なので、街のアパートでも 1 階は家畜小屋、2 階が寝室、3 階が台所…というような 3 層構造が多くあります。学校は 10 時～3 時か 4 時頃迄で、お昼は家からお弁当を持って行ったり、10 円位の物（パンやベビースターラーメンの様なもの）を買って食べます。勉強が終わったら家に帰って、友達と遊んだり遊びながら家の手伝いをしたり、宿題をします。夕食後はテレビを見たり家族と話したり勉強をして寝ます。地方では家の手伝いをするのは同じですがその度合いが違ったり、学校に行けない子ども達も沢山います。

作ってみよう!! ネパールのおやつ

“ニムキ”

材料（5 人分）

小麦粉 … 250 g
練り胡麻 … 大さじ 2
塩 … 適宜
スパイス … クミン&ガラムマサラ（各大さじ 1/2）
ブラックペッパー・すり胡麻（少々）

小麦粉に練り胡麻、スパイスを入れて混ぜる。
少しずつ水を加え、耳たぶくらいの柔らかさになるまでよく練る
麺棒で薄くのし、包丁で平行四辺形に切り離す
油できつね色になるまでカリッ揚げる



“ナマステ”の意味

胸の前で手を合わせて言うこの挨拶の言葉は、信仰心を大切にするネパールでは「あなたの心の中にいる神様に敬意を表します」という深い意味が込められているそうです。

世界の子ども達は今

＜ユニセフが支援する子ども発達センター…ネパール＞

最も心身の発達に重要な幼児期 3～5 歳の子どもたちが、1 日 4～5 時間集まって身体的、社会的、情緒的発達を促す活動をしています。将来小学校に上がっても、学校の授業についていけるように支援したり、上の子どもが小学校で妹弟の子守りをして授業に集中できなくなることも防ぐことができます。ユニセフは先生になる人の研修も行っています。(文) 松本真弓 (絵) 蛭沢素子



このセンターを村に紹介したのは、ユニセフと協力して活動している NGO の人達でした。村の退役軍人であるブンさんは「これは地域の力を合わせて子どもたちによりよい環境を提供するためのチャンスだ」と考えました。

このセンター建築には、総勢 883 人もの村人が携わりました。ユニセフはセンター建設に 128 ドルの資金を提供しましたが、村人たちも 256 ドル、地方政府も 128 ドル出資しました。



＜住民参加の芽＞ 子どもを安心して預けられる場所ができてうれしい。このことをきっかけに村人たちが村の発展のために協力して活動するようになった。村の若者は文化活動を積極的に始めるようになり、今は毎週カルチャーショウを開催している。私たちの願いは、若者にとってよい社会を作ること、とブンさんは言います。

全国の活動紹介・・・・・・・・京都生協のユニセフ活動を紹介します

①ユニセフサポーターによる夏休み企画が取り組まれました。

京都生協ユニセフサポーターでは、8月9日にピースアクション平和企画の一環として「ひとりでは生きられない」をテーマとして、ワークショップ「どこからきているの？その国はどんな国？」を開催しました。

集まった小学生7名とビデオ「ユニセフと地球のともだち」を鑑賞したあと、普段よく見かける食品がどこから輸入されているのかを考え、次のコーナーでは、身の回りにある石油から作られた製品について考えました。ワークシートにクイズ方式で食品の輸入国を答えたり、石油で出来ている物を考えたり、世界地図で場所を確認する作業に子ども達も身をのり出していました。参加した小学6年の女子は「消しゴムが石油からできているのにビックリ」。普段何気なく使ったり食べたりしている物や使っている製品が、実はいろんな国から来ているという事に改めて気付いたようでした。小学6年の男子は「みんな平等に平和がいいと思った。」と全体の活動の感想を話してくれました。



食べものはどこから？				
食品	1位 国名	2位 国名	3位 国名	石炭産地
醤油	中国	アメリカ	オーストラリア	中国
大豆	アメリカ	オーストラリア	中国	中国
小麦	アメリカ	オーストラリア	中国	中国
バナナ	フィリピン	インドネシア	タイ	中国
砂糖	インドネシア	タイ	オーストラリア	中国

つぎの国から入国しています。

アメリカ	中国	オーストラリア	インドネシア
タイ	インドネシア	フィリピン	

石油からできているものは何かな？				
消しゴム	プラスチック	スチール缶	ガソリン	セシウム
サッカーボール	ゴム	ゴム	ゴム	ゴム
靴	ゴム	ゴム	ゴム	ゴム
ゴムボール	ゴム	ゴム	ゴム	ゴム
ゴムボール	ゴム	ゴム	ゴム	ゴム

②京都生協ユニセフ交流会が開催されました

11月2日、「京都生協 2004 ユニセフ活動交流会」が開催され、約30名が参加しました。交流会では、ワークショップによる学習やユニセフ・ラオス指定募金「支援活動内容報告」、地域の活動交流などが行われました。

活動報告では、生協のユニセフ活動と地域の活動が結びついた事例として、03年度の京都・美山町の宮島小学校の取り組みが紹介されました。02年度のユニセフお年玉募金贈呈式に行政委員の子供が参加したことをきっかけに、その子供が通う宮島小5年の総合学習でユニセフ活動に取り組むことになりました。親からお金をもらって募金するだけでなく、自分たちでお金を集めることはできないのか、などについて話し合っ、アルミ缶を集めてお金に換える活動が取り組まれ、その過程で京都生協のユニセフサポーターが学校を訪問して学習会に対応しました。そして、アグネス・チャンさんを招いて03年10月25日に開催されたユニセフ募金贈呈式で子供たちが集めた募金を贈呈しました。また、贈呈式に出席した子供たちが中心となって、アグネス・チャンさんの話を題材にして、世界の国の子供たちを紹介する劇が宮島小で上演されました。

第26回ユニセフ ハンド・イン・ハンド

■ 今年のテーマは？ 「みんなで守る幼い命—5歳の誕生日を笑顔で—」です。

0～5歳という時期は子どもにとって人生のスタートである大切な時期です。しかし、現在、1日に約3万人、年間に約1,100万人もの子どもたちが5歳の誕生日を迎えることなく命を失っています。主な死亡原因は、肺炎、マラリア、下痢による脱水症、はしかなどで、容易に予防や治療ができる病気です。また、栄養不良がそれに追い討ちをかけています。ユニセフは予防接種、経口補水療法や母乳哺育、家庭菜園の促進などを通じて、より多くの幼い子どもたちが笑顔で5歳の誕生日を迎えられるように、活動を続けています。

■ どうやって活動するの？

- ・ 友人や家族、仲間、会社の同僚などが集まって、街頭募金をしたり、クリスマス関連のイベントを実施しその収益を募金する
- ・ ユニセフ協力デーを設定し、お店の売り上げの一部を募金する
- ・ 学校や職場、家庭などに募金箱を置いて、周囲に募金を呼びかける
- ・ 学校の文化祭等で呼びかける
- ・ お小遣いの一部を募金する



今までの取材で伺ってきた いろいろな工夫をお知らせいたします。

◆サンタさん・トナカイさん登場。記念撮影のサービス◆チンドンやさんが出現して宣伝◆みんなでお手製のサンタの帽子をかぶってよびかける◆インドの民族衣装サリーを身に着けてアピール◆ボール紙で大きな100円玉を作り、「あなたの100円でこんなことができます」とアピール◆あたたかいコープカフェオレを無料サービス◆12時の時報にあわせて、全員で手をつなぎあうデモンストレーション◆消火器のかぶりもので「紛争の火を消す」というパフォーマンス◆ハンドマイクで呼びかける◆半分募金にと100円で缶バッチづくり◆ハンドベルの演奏◆おしるこ販売で募金にあてる◆手から手にぬくもりを伝えるイメージのアロマテラピー講習会で募金活動◆特製の「ユニセフ募金」とかかれたのぼりでアピール◆募金のお礼にチラシをわたす。キャンディーをわたす。牛乳パックで作った名刺入れをわたす。どんぐりでつくったお人形をわたす。

さて 今年はどうな風に実施なさるのでしょうか？ご報告 お待ちしています。

ハンド・イン・ハンド中央大会は 今年も**12月23日 恵比寿ガーデンプレイス**で開催されます。聖歌隊の合唱。アグネス・チャンさんをはじめ多数のゲストの応援のもと募金を呼びかけます。



ユニセフ＊コープネットワーク
ぽむ・ぽむ通信

No. 26 2004年12月15日発行

編集 グループ ぽむ・ぽむ

スタッフ・編集／尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト／蜷沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>